成田市都市計画審議会 会議録

1 開催日時

令和6年12月25日(水) 午後2時00分から3時30分まで

2 開催場所

成田市花崎町760番地
成田市役所 行政棟6階 中会議室

3 出席者

(委員)

田中委員、中村委員、木村委員、加瀬委員、会津委員、鬼澤委員、眞野委員、
細貝委員、小泉委員、本宮委員、近藤委員、鈴木氏(佐藤委員代理)、前田委員、
渡邊委員(順不同)

※欠席された委員 磯野委員

(事務局)

山崎都市部長、都市計画課 川瀬課長、橋本課長補佐、川島係長、岩瀬主査、
浜野主任技師

(議案第1号説明員)

土木課 河田係長、渡辺技師
市街地整備課 浦壁課長
公園緑地課 平山課長、古川係長

4 議題

議案第1号 都市再生整備計画事業の事後評価について〔諮問〕

5 議事

議案第1号

議長： それでは議事に入ります。議案第1号 「都市再生整備計画事業の事後評価について」、事務局より説明をお願いいたします。

事務局： それでは、議案第1号 「都市再生整備計画事業の事後評価について」、概要を説明させていただきます。

本市の都市再生整備計画につきましては、成田ニュータウンなどの中心市街地において、令和2年度から本年度までの5年間を計画期間とし、生活利便性の高い快適で持続可能なまちづくりを目標に、国の補助金を活用し、道路や公園整備など幅広く取り組んでまいりました。

事後評価は、この取り組みがもたらした成果や計画に掲げた目標の達成状況等

を検証し、その後のまちづくりに活かすための作業と位置づけられておりますことから、評価の内容につきまして、本審議会に諮問するものでございます。

事務局： お手元には、右上に「参考資料 1-1」と記載されたカラー刷りの資料をご用意ください。説明は、本資料を使って進めさせていただきます。

説明の流れですが、まず、都市再生整備計画事業の概要をご説明し、その後に、本市が取り組んだ具体的な事業内容と評価について説明させていただきます。

1 ページをご覧ください。

はじめに、都市再生整備計画事業の概要についてご説明いたします。

都市再生整備計画事業は、地域の歴史・文化・自然環境等の特性を活かした個性あふれるまちづくりを実施し、全国の都市の再生を効率的に推進することにより、地域住民の生活の質の向上と地域経済・社会の活性化を図ることを目的としています。

市町村が地域の特性を踏まえ、まちづくりの目標を実現するために実施する各種事業等を記載した「都市再生整備計画」を作成することにより、事業等の費用に充当するための交付金が年度ごとに交付されます。そして、交付期間終了時、市町村は、目標の達成状況等に関する事後評価を実施し、その結果を公表することとなっています。

交付対象につきましては、2 ページに示すとおり、計画に位置付けられたまちづくりに必要な幅広い施設等が対象となります。

3 ページをご覧ください。

都市再生整備計画では、PDCA サイクルの考えを用い、事業評価を事業の良否判断のみに終わらせず、今後のまちづくりに反映し、まちづくりの成果を高める働きかけを行っています。

後ほど説明いたしますが、都市再生整備計画（成田市居住誘導地区）では、令和2年度から令和6年度の5年間を計画期間としており、最終年度である今年度に事後評価を実施します。

事後評価は成果等を検証し、今後のまちづくりに活かすための作業であり、第三者的立場から妥当性を審議するため、評価委員会での審議を行うことが推奨されており、本市では都市計画審議会を評価委員会として位置づけております。

事後評価の妥当性及び今後のまちづくりの方針についてご意見をいただき、令和7年度から実施する次期計画及び今後のまちづくりの参考にしたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

なお、本日の審議に先立ち、本年10月18日から11月1日の2週間、住民への意見募集を行いました。意見はありませんでした。

4 ページをご覧ください。

都市再生整備計画（成田市居住誘導地区）の内容について説明いたします。

本市では、平成 30 年 3 月に「成田市立地適正化計画」を策定し、これにより、居住誘導区域と都市機能誘導区域等を設定しており、日常生活に必要な機能が集結したコンパクトなまちづくりを推進するとともに、拠点間を交通ネットワークにて結ぶ相互補完型の都市の形成を目指しております。

こうしたなか、国では、立地適正化計画の実現に向けた取り組みを集中的に支援しようと、令和 2 年度から補助制度を拡充しており本市においても、拡充された補助制度を活用し、立地適正化計画の推進を図るべく、市内において対象事業を募集し、令和 2 年度から新たに本都市再生整備計画を開始しました。

次に、都市再生整備計画の対象区域についてご説明いたします。

5 ページをご覧ください。

計画の事業区域は、立地適正化計画に設定する居住誘導区域としております。

なお、本市が設定する居住誘導区域は、成田駅周辺地区及び三里塚地区の市街化区域の一部に設定しておりますが、今回の都市再生整備計画では、成田駅周辺地区の 1,083.8 ヘクタールを対象といたしました。

次に、整備計画の目標と主な事業です。

6 ページをご覧ください。

本地区には、充実した都市基盤のもと本市の人口の約半数が居住しており、人口減少や少子高齢化が進む社会情勢を踏まえた持続可能なまちづくりの実現が求められております。

こうした中、本市では、成田空港の機能拡充や、国家戦略特区の指定に伴う学術・医療集積拠点の形成により、更なる人口増加が期待されており、本地区が将来にわたり居住地として選ばれることを目指し、公共施設等の整備や公共交通網の維持を図るなどとする 3 つの目標を設定いたしました。

これら目標を達成するため、目標に関連する各種事業を進めてまいりました。各事業の進捗は、7 ページのとおりです。

表に記載の上から 5 つまでの事業が、国の補助金の交付対象事業であり、この 5 年間で予定した内容を完了いたしました。

また、残る 3 つの事業は、内容や進捗などから補助金の交付対象にはなりません。本計画に関連する事業と位置付けたものであります。

8 ページは、7 ページで示した各事業の実施場所を示しております。地図の中で、基幹事業と示しているものが計画の柱となる事業であり、提案事業や関連事業は計画に関連するものであれば比較的自由に位置づけることが可能となっております。

なお、令和 2 年度から令和 6 年度までの全体総事業費は、2 億 9,970 万円であり、うち、45.9 パーセントにあたる 1 億 3,760 万円について国の補助金を活用いたしました。

9 ページからは、補助金を受けて実施した 5 つの事業のうち、主な 3 つの事業

の成果をご説明します。

はじめに、道路事業として実施した「自転車通行帯事業」です。

計画区域内に位置する市道 8 路線を対象に、本市の自転車通行帯の整備方針に基づき、自転車の通行位置を視覚的に示す路面標示を計画的に進め、5 年間で延長 22.3 キロメートルを整備しました。

自転車は、車道走行が原則という道路交通法に基づくルールを明示し、ドライバーに対して自転車が車道を走行する位置を示すことで、安全な運転を意識していただくことに加え、自転車も通行可能な歩道には、歩道内での、歩行者及び自転車の通行空間を分けることによる事故防止を目的としております。

これにより、安全で快適な住環境の形成や交通の安全が図られたものと評価しております。

次に、10 ページ、公園事業として実施した「公園遊具整備事業」です。

5 年間で、14 か所の公園におきまして、新たに遊具を設置しました。

公園の選定にあたりましては、毎年の点検による既存遊具の老朽化状況や利用頻度、利用者からの要望を踏まえ、毎年度整備優先度の見直しを行いながら取り組んでまいりました。

これにより、安全に遊べる環境が整い、まちの魅力向上も図られたものと評価しております。

次に、11 ページ、道路事業として実施した「歩道整備事業及びファサード整備補助事業」です。

成田山表参道のセットバック事業であります。本計画の目標とする安全で快適な住環境の確保に資する事業として、国庫補助金を活用し取り組んでいるのであります。

実施内容としては、対象物件 2 件に対し、道路境界から 2 メートルのセットバック部分の用地買収等を行い、歩道用地を確保しました。あわせて、地権者が建物前面の景観整備を行う場合は、その整備費用への補助を行っております。

これにより、日常利用や観光など多くの方々が行きかう表参道の通行が改善されたものと評価しております。

続きまして、12 ページをご覧ください。

目標を定量化する指標についてです。

都市再生整備計画は、客観的で透明性の高い評価方法を取り入れ、事後評価を重視した制度となっており、表に記載のとおり 4 つの指標を設定しております。

指標 1 は、若年層にも選択してもらえるようなまちづくりを目指し、区域内にある国際医療福祉大学の学生の市内居住割合を指標として設定しました。

指標 2 は、立地適正化計画の目標指標の一つでもある市民満足度を指標として設定しました。

その他 2 つの指標は、事後評価時に、事業成果を検証するため新たに設けた

指標になります。

その他の数値指標 1 については、学生に関わらず地区内の居住人口への影響の確認として、また、その他の数値指標 2 については、自転車通行帯整備効果の確認として設定いたしました。

以上、4 つの指標ごとの評価について説明いたします。

13 ページをご覧ください。

1 つ目の指標である「国際医療福祉大学の学生の市内居住割合」です。

従前値は、令和元年 5 月時点の居住割合である 37.4 パーセントで、5 年後の目標値を、41.0 パーセントと設定いたしました。

これに対し、評価値は、令和 6 年 5 月時点で 37.8 パーセントでした。

国際医療福祉大学は、平成 28 年の開学以降、学部や学科の新設により学生数が増加しております。令和元年度は 1,847 人でしたが、令和 6 年度は 2,605 人と、758 人の増加となり、市内居住数も 295 人増加となりました。

目標値の達成には至らないマイナス面はあるものの、継続的な住環境整備が、生活拠点として選択に寄与したものと考えており、学生数増加に応じて居住割合が維持されたことはプラスの評価といたしました。

14 ページをご覧ください。

2 つ目の指標である「市民満足度」で、市内在住者を対象に、毎年度当初に実施する市民満足度調査の結果を指標としたものです。

本指標は、市民満足度調査の調査項目のうち、資料右下に記載の 3 つの施策に対する「満足」、「やや満足」の回答割合の合計を指標としております。

従前値は、令和元年度の調査結果に基づく 36.5 パーセントであり、目標値につきましては、「どちらともいえない」と回答した方の約半数が、「満足」「やや満足」の評価に転ずることを目標に、59 パーセントとしました。

しかしながら、評価値は、37.1 パーセントと従前値からは上昇しているものの、達成値を大きく下回る結果となりました。

本調査は、市内全域を対象としたアンケートであり、本計画の成果を諮る上では、不十分な面がございました。このことから、本地区に限定した満足度の確認として、本年 6 月にまちづくりに関する市政モニターアンケートを実施しており、1,544 人に配信し、1,046 人の方から回答を頂きました。

アンケートは、「成田駅周辺地区」、「成田ニュータウン周辺地区」、「公津の杜駅周辺地区」、「美郷台周辺地区」の 4 つの地区別に行いました。

参考までに、「成田ニュータウン周辺地区」の結果をご紹介しますと、公園や緑地、道路などの公共施設整備の充実度や自転車で快適に走行できるかといった問いには、「大変そう思う」「そう思う」と回答をいただいた方が約 7 割と高い評価である一方で、公共交通機関の充実や子供の遊び場を求める声、また、バリアフリー化の推進、成田湯川駅の賑わい創出など様々な意見をいただきました。

次期計画においては、成果の満足度を諮る上で、指標の設定や調査方法を見直してまいりたいと考えております。

続いて、15 ページをご覧ください。

その他の数値指標 1 である「計画区域内人口」で、住民基本台帳から計画区域内の人口を算出したものです。

令和元年の従前値から 769 人増加しており、コロナ禍による空港関連事業者等の転出による大幅な減少を経て、行動制限の緩和により増加に転じた結果が表れていることから、本地区が本市にとって重要な居住地であることが分かります。

引き続き、計画的なインフラ整備などにより、安全で快適な住環境の維持改善に取り組んでまいりたいと考えております。

続いて、16 ページ、その他の数値指標 2 である「自転車通行帯整備箇所における自転車事故件数」です。

図面に着色した整備路線における自転車に係る事故件数につきましては、令和元年度では 17 件でしたが、令和 5 年度は 5 件と、12 件減少しております。

自転車通行帯整備事業により、自転車の通行位置や歩行者通行優先の注意喚起など、路面標示により視覚的に示したことで、事故件数の低下につながったと考えております。

17 ページをご覧ください。

これまで説明した各指標について、表として整理したものでございます。

本計画の第 2 期にあたる新たな都市再生整備計画を策定し、令和 7 年度から開始する予定であり、各指標の達成状況などを踏まえ、第 2 期計画へ反映してまいります。

特に、指標 2 につきましては、本地区の限定的な評価となり、かつ、より事業成果として分かりやすい指標と調査方法に改善したいと考えております。

以上が、これまで市で行いました整備計画の事業内容とその評価についての説明とさせていただきます。

議長： ただいま議案の説明がありましたが、馴染みの少ない事業で、ボリュームもかなり多いように思いますので、審議に入る前に、まず質問等があれば受けたいと思います。

細貝委員： 資料 3 ページの PDCA の部分で、評価委員会での審議の前に「住民への公表・意見の募集」があります。公表された期間は、ホームページ等に掲載されたと思いますが、どれぐらいの期間アップされていたのか教えていただけますか。

事務局： 原案の公表期間といたしましては、本年 10 月 18 日から 11 月 1 日の

2週間ホームページにて公表し、意見の募集を行いました。

細貝委員： わかりました。2週間という期間の設定については、これを国に最終的に出すということで、国のガイドラインみたいなものがあって2週間と定められているのか。ほかの自治体もいくつか見てみましたが、やはり2週間くらい公表して意見を聞いているという状況がありました。2週間とした根拠について教えてください。

事務局： 2週間という公表の期間については、評価の手引きに記載されているものですが、公表の方法や期間につきましては、基本的には市町村の任意となっております。期間については、本市のこれまでの事例や、周辺の市町村等のものを参考とした上で、2週間と設定させていただきました。

議長： 他にご質問ございますか。

会津委員： 関連で伺います。特に意見はなかったと先ほど説明がありましたが、そのことについて事務局はどのように考えていらっしゃるのでしょうか。

事務局： 市として取り組んできたことを、何かしらご意見いただきたいと考えておりました。この10月の公表の前段として、市政モニターアンケートを実施し、本計画により取り組んだ事業がどのような評価をされているかは捉えており、公表期間中に意見はなかったものの、アンケートにより様々なご意見をいただくことができたと考えています。

会津委員： この対象区域に今、6万6,000人以上居住している方々がいらっしゃって、みんな何かしら自分が住んでいるまちについて意見を持っていると思います。ただ、その意見募集がなされていたことすら知らない方が圧倒的に多いから、こういった結果になっていると思っていて、やはり私はその意見募集の手法において何か課題があったのではないかと思います。

これはもう終わってしまったことなので仕方がないですが、今後、住民の意見を募集する際には、もっとわかりやすく資料を作るとか、そもそも意見募集していることを広く説明をしていただけるとより実態がわかるなど思っておりますので、よろしくをお願いします。

渡邊委員： 資料14ページで、市民満足度アンケートを取られたということですが、アンケートというのは、いろいろ試行錯誤してくれたと思いますが、結構難しいですね。その中で、調査方法の中に施策1、2、3とあって、具体的にど

ういう設問を設定されたのでしょうか。なぜ聞いているかというのと、令和7年度から、こういった意見やアンケートをもとに新しい計画を作られると思いますが、そのアンケートの内容は結構大事と思っているので、具体的にどういう内容でアンケートを取られたのか教えてください。

事務局： 市民満足度アンケートは、市が毎年、定期的に行っているもので、具体的な設問としては、この3つの施策に対して、例えば、1つ目の施策である「住みやすく、快適な生活環境を整える」に対し、「満足」、「やや満足」、「どちらとも言えない」、「やや不満」、「不満」、あるいは「無回答」と回答いただきます。このうち、「満足」と「やや満足」の合計値を目標値といたしました。

渡邊委員： 例えば、「やや不満」とかは、具体的に意見が上がってくるのですか。それとも、回答数の集計だけで終わっているのですか。

事務局： この指標としては、「満足」と「やや満足」の割合を集計するのみとなります。

渡邊委員： 次回は、その辺の工夫の必要があるかもしれないですね。

議長： 他にございますか。

眞野委員： いくつかありますが、一つずつ質問したいと思います。

資料13 ページの国際医療福祉大学学生の市内居住割合ですが、元々の数値はパーセントで評価するということでしたが、居住人口は295人増加しているということで、目標値の達成は「△」と評価されています。その所見の中に、「道路等のインフラ整備により、学生が選択する上で必要な住環境の維持・改善につながったと考える」とありますが、その根拠を教えてください。

事務局： 計画を策定した段階では、大学が開学し、これから学生数が増えていくと期待する中、ニュータウンでは若年層の居住を増やすことを目標としており、ニュータウン内の玉造地先に学生寮があるため、大学までの通学路に自転車通行帯整備を行うことが、通学における安全性や都市機能を高め、居住地として選ばれるまちづくりにつながるとし、本計画の指標とした経緯がございます。

眞野委員： 指標について考察するとしたら、アンケート等の具体的な数値は必要だと思います。37.8パーセントという現状を考えると、「なぜ成田に住まないのか」を聞いた方が、答えは明確に出るのではないかと思います。

実は、私は公津の杜に住んでいまして、目の前に大学があります。公津の杜で自治会を毎月行っていますが、国際医療福祉大学ができたことが、まちの活性化に繋がっているかと言ったら、誰ひとり答えないですね。全く繋がってないと。どうしてかという、学生が、駅前で非常に便利なので、寮に住んでいる人は別として、あの短い50メートルぐらいの校門と駅の往復だけで終わってしまう。「ほこみち」（歩行者利便増進道路の指定に向けた、公共空間活用の実証実験）により、駅前広場にキッチンカーが出てきている。ユアエルムの地下1階のフードコートは確かに学生が増え、キッチンカーでも学生が便利になって喜んでいますが、ところが、そこに集中してしまうために、地域にある飲食店等に学生が流れて行かない。つまり、学生がいる場所は極めて限定的で、それがまちの活性化に全く繋がっていない。その中で居住の割合が増えたことが、このインフラ整備によるというのは、現実にはそこに生活している者としてはかなり違和感があります。

もっと言うと、その自治会の役員の方の中には、国際医療福祉大学の位置が便利すぎるという意見があり、駅前からもう少し離れていれば、途中で公共交通機関に乗り、例えば、カラオケで時間を過ごすなどの利用がされるものと思います。

そうすると、今後その居住の割合が目標値を何パーセントに設定したとしても、まちづくりを根本的に考えていかないと、成田に住みたいと思うのは難しいのではないかと、極めて強く思います。地域の自治会の方や商店会の会長さんにも話はしましたが、若い学生で飲食店も含めて地域が潤ってきたかという、そういう実感もないのです。なので、そういった意見を集約することと、学生への丁寧なアンケート調査で、問題点や課題を洗い出された方がいいのではないかと思います。

事務局： 貴重なご意見ありがとうございます。

一つだけ、委員の皆さんに少し補足をさせていただきますと、本計画の指標とした学生の居住の割合や、市民満足度の数値を高くするためにどんな事業をやるべきというのではなく、成田市が居住誘導区域で行っている、自転車通行帯や公園の遊具の整備などの事業が住みよさに表れたかを推し量るに相応しい指標について、今後考えていくところだと思います。

当初設定した2つの指標については、結果として、表れづらいものだと感じているところがございますので、次期計画においては、指標について改めて見直しして、よりわかりやすいものにしたいと考えております。

眞野委員： よくわかりました。ありがとうございます。インフラ整備で言えば、公津の杜駅前とユアエルム周辺がでこぼこで、樹木の根っこが生えていて、お年寄りが転倒してしまった現場に立ち会った経験があります。学生からも極めて歩

きづらいとあり、大学周辺を考えるのであれば、駅前のインフラ整備についても、ぜひ改善していただきたいと思います。

鬼澤委員： 先ほどは、説明ありがとうございました。繰り返しになりますが、資料 14 ページの市民満足度の目標値の 59.0 パーセントの当時の根拠を教えてください。

事務局： 資料 14 ページをご覧ください。従前値といたしましては、棒グラフでいうとオレンジ色の部分と赤色の部分、これを合わせたもので、36.5 パーセントでした。目標値 59 パーセントにつきましては、棒グラフのグレーの部分で、当時のアンケートで「どちらともいえない」と回答された方の割合になります。このうちの約半数が、「満足」もしくは「やや満足」に転じるものとして、この目標値を設定しました。

鬼澤委員： わかりました。次に、先ほど言ったように、このアンケートを参考にするのはふさわしくないと、数字が出づらいううに気がついたのはいつですか。

事務局： 今回の事後評価を実施した本年度に成果を確認し分かったところで、前年度または前々年度に確認し、この指標のあり方を見直すという考えも持つべきであったと思っております。

鬼澤委員： わかりました。途中では気がつかずに、最後になって初めて気がついたという考えでいいですか。

事務局： 途中で気づいたとか、気付かないという視点とは少し違いますが、令和 2 年度当初に本計画を定めた際に、市民満足度については施策 1、2、3 を対象としたアンケート調査により数値化とすると決定し取り組んでおり事後評価として、当初と比較する上でも変えられるものではないというのがございます。

目標値から大きく乖離した結果となり、最初の設定として、少し無理があったものと感じておりますので、次期計画の指標として、数値としてわかりやすいもの、評価として表れやすいものを設定していきたいと考えております。

眞野委員： 続いて、資料 15 ページについてお伺いします。

計画区域内人口の増加ということで、こちらの所見について、「従前値よりも 769 人増加しているということは、評価できる」と書いてありますが、この人口増加に寄与したと考える根拠を教えてください。

事務局： 今回の計画の中で実施した事業は、ニュータウン地区を中心とした自転車通行帯の整備と、公園の古くなった遊具等の改修を主たる事業として複数箇所で行いました。こういったインフラ整備が、そこに住む方や生活する方にとって、居住地として良いと思っていただけることに繋がっているのではないかとというのが事務局の所見でございます。

眞野委員： 例えば、このグラフの中で見ると、R1 と R6 を比較して、人口が769人増加しているということですが、例えば、成田市全体の人口を比較すると、R1 は13万2,883人、R6 は13万3,258人で、375人の増加になっています。ただ、日本人だけの人口について言えば、これは皆さんもご承知のことだと思いますが、ずっと減少傾向で、R1 から R6 までの間で3,857人減少しています。一方、外国人住民は5,637人から9,869人に増加し、4,232人と約1.8倍の増加です。この計画区域内人口が769人増加したことは、やはり外国人技能実習生、特技生それから留学生、技能実習生研修生等が大幅に増加した集合団地が多いという結果ではないかと思えます。となると、この所見によるインフラ整備による効果で人口が増えたのではないかというのは、一体どういう観点なのか少し疑問に思うところで、もう一度そのあたりを説明していただけますか。

事務局： 外国人の方を含めて、居住地として成田市もしくは駅周辺を選ぶ方々の視点として、こういったインフラ整備がされているかを含めて、まちの魅力というものが大きいと思えます。それは駅が近い、また空港など働く場所と居住地が近いという観点で成田市が選ばれているものと思っております。

自転車通行帯の整備を実施したことだけではなく、インフラが整っている成田市がある程度選ばれているものと認識しております。

眞野委員： ここだけははっきりしておきたいですが、少なくとも外国人の方が、特に技能実習生や特技生、研修生は、成田市を積極的に選んでいるのではなくて、国際空港に近い居住地という利便性で選択しているのですが、市のインフラ整備、公園が綺麗になったとか、自転車通行帯ができたとか、そういうところで選んでいることはないです。ですので、日本語学校、留学生の学校に行って、なぜ成田に住むのかときちんとアンケートをとり、具体的な数値はきちんと明示しないと、説得力に欠けるのではないかと思えます。

この後の説明資料の中に、多文化共生ということが、初めて出てきたので、すごく今後に期待していますけれども、今回はやや説得力に欠ける所見と思うところですので、丁寧な意見収集をお願いしたいと思えます。

議長： まず質問項目を整理するという話でしたが、既に評価の指標とか、所見のところまで意見質問が出ておりますので、これからは質問だけに限らず、審議に入りたいと思います。よろしくお願いします。

私自身もこの評価の方法、指標については、少し事業の内容と合わない、事業の影響効果に比べて、指標の網目が大きすぎるとか、市民の様々な視点の評価があるのではないかと思うところです。皆さんも多々ご意見があるかと思いますが、その辺を含めてご意見ご質問等あればお願いしたいと思います。

会津委員： 今の眞野委員の質問に関連しますが、資料 15 ページで、計画区域内人口が 769 人増えたとありますが、日本人と外国人のそれぞれの内訳の増減を教えていただけたらと思います。

事務局： 令和元年（平成 31 年 3 月）の日本人は 6 万 3,202 人、それに対して、令和 6 年 10 月時点で 6 万 1,608 人です。

同様に、外国人の計画区域内人口につきましては、平成 31 年 3 月時点で 2,434 人、令和 6 年 10 月は 4,797 人となっております。

会津委員： ありがとうございます。やはり眞野委員が指摘されていたように、日本人が減少して外国人がこの地域では特に増えているという特色があるかと思えます。

先ほど事務局から、若年層を呼び込みたいというお話がありましたが、まさに外国人は、留学生や若い外国人労働者が圧倒的に多いです。そういった意味では、日本人は高齢化して数が減っているけれども、若い世代の外国の方が増えているということはこの所見の中に入れると、今後のまちづくりの大きく方向性が変わってくるのではないかと思うので、私からも指摘させていただきたいのと、あと、やはりなぜこの場所を外国の方が選んで住んでいるのかということについても、今後しっかりと意見を聞いていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

議長： 他に、ご意見ご質問等ございますか。

加瀬委員： 成田商工会議所の加瀬でございます。本日は事後評価による諮問ということですので、商工会議所の立場といいますか、成田市に生まれた市民の一人として、意見というより、感想を申し上げたいと思っております。

資料を先に頂いたものですから、いくらかまとめたところがございますので、感想を申し上げたいと思います。

指標1の目標達成が「△」、指標2の目標達成度は「×」、あまりうまくいかなかったという評価だったと思います。残念ながら私の実感もそのような感じであり、あまり違和感はありません。

また特に、市民満足度に関し、近隣市町村がどのような数字なのかも、少し気になっております。というのは、先ほども話がありました、30代40代の方が、成田周辺でアパートに住んでいる方が、大体住まわれるのが千葉ニュータウンということになります。千葉ニュータウンは、皆さんもよく行かれると思いますけどその理由はよくわかると思います。活力、活気、若者との交流、そういうところが感じられます。

今、成田は、空港の機能強化により、そこで働く人たちの住まいの受け皿にもならなければなりません。成田市においては本当に大きなチャンスだと言えますので、商工会議所もそこには大きな期待を持っております。

また、インフラ整備などの市の直接実施する施策と、民間の推し進める事業があるかと思っております。この事業は、一体化、相互補完して、都市づくりが進められるのが良いかと思っています。そのためには、都市計画法やその他の法律による規制緩和なども必要なかと思っています。

このことは、その他の数値指標1にありますように、人口に関することに大きく関係することと思っております。今、千葉県の熊谷知事も非常に注視、注目をしておりますので、県と連携して進めていただきたいと思っております。

また、最後になりますが、その他の数値指標2、自転車事故の数値、17件が5件に減ったということには素晴らしいことだと思います。歩道や車道にラインを引く、細かく施策を展開された結果かと思っています。それが数値に表れたこととしては、市民として嬉しい、商工会議所として嬉しいところでございます。

そのようなことから、評価全体について、事務局の案に賛成したいと思っております。今回の評価を踏まえまして、成田市の都市整備をさらに前進させていただくことを期待しまして、感想として申し上げます。

議長： ありがとうございます。他にございますか。

なければ、私も少し感想を述べてよろしいでしょうか。先ほども申しましたが、今回の事業は、道路本体とか公園の本体整備というよりは、付属的な部分、使いやすさなどといった部分のように見えます。ですから、例えば、道路事業で評価した場合で、ある場所と繋がって便利になったというものではないので、評価する上で指標が大きすぎるのではないかと思います。やはり、事業の影響範囲とか効果を踏まえた指標を設けることが必要であると思っております。

また、人口の増加については、コロナ禍で人口が減ったということは、今後、成田が人口増加を図る上で何が大事だろうかと、やはり空港関連の事業従事者が減っているというのであれば、そういったところを充実させていくということが

必要ではないかという印象を持ちました。

あと、市民満足度のアンケートですが、資料 14 ページを見ますと、R3 と R4 はなぜか「やや満足」と「満足」が急激に上がっています。アンケートの取り方がどうだったかというところもあるかと思いますが、今後もその辺の事業の影響範囲等を考えた上で、アンケートの取り方に配慮していただいた方がいいかと思えますし、あるいは、先ほど眞野委員もおっしゃられたとおり、事業の影響範囲を考えたときに、自治会とか地元にいる方が一番よく実態を見ているわけですから、そういった声も聞いた上で評価するといったようなことが必要ではないかとも思うところです。

それから、資料 13 ページの学生の割合ですが、これも在学学生数が増えたということで、在住の学生数も増えているようですが、全体の学生の市内と市外の居住者数の割合はほとんど変わらないです。やはり何が市内市外を決める要因になるのか、その辺は単にインフラ整備だけではなくて、地価の問題等もあるでしょうし、あるいは住みやすさなど、人によって違うでしょうけども、その辺も配慮した上で事業もやっていかなければいけませんし、そういったことに配慮した指標を設けることが必要ではなかろうかという印象を持ちました。

それから 1 点お聞きしたいのですが、自転車通行帯の整備によって、自転車の事故が減ったということですが、自転車の全体の事故はどうなのか。例えば、自転車通行帯であったところだけは減っているというのであれば、明らかにその通行帯の影響なのか、あるいは道路交通法の改正に伴って、盛んに警察の方々が安全指導だとか情報発信をされておりますので、その辺がどうだったのかというのが少し気になります。

事務局： 全体の事故数ですが、計画区域に含まれるニュータウン地区、公津地区、成田地区の合計で言いますと、交通白書からの数値で、令和元年度 56 件、令和 2 年度 52 件、令和 3 年度 58 件、令和 4 年度で 52 件となっております。

議長： そうしますと、事故件数はそんなに大きな変動はないと、それから比べると、自転車通行帯整備箇所の事故減少は、多いというようなことが言えるのでしょうか。

事務局： はい。

議長： ありがとうございます。他にございますか。

なければ、次の今後のまちづくりの方策と予定事業について説明をお願いしたいと思います。

事務局： それでは、今後のまちづくり方策について説明させていただきます。配布した資料をご覧ください。

本計画に記載しておりました、まちの目標は3つございました。表参道の歩道整備による道路利用者の安全性の向上、公園遊具新設による良好な住環境の形成、また、地域公共交通計画の策定による公共交通網の維持確保に向けた取り組みの開始などがございます。

今後としましては、引き続き良好な居住地として、その魅力や機能を維持し、公共交通など都市機能の充実を図ってまいります。また、外国人居住の増加を考慮したまちづくりも新たな課題として認識しているところでございます。

裏面をご覧ください。こちらは、今後のまちづくりの方策とその方策に関し、次期計画において実施を予定する事業を整理しているものでございます。

令和7年度から新規で実施しようとする事業につきましては2事業あり、継続して実施するものと合わせて全部で7事業を予定しております。

まず1つ目の方策については、表参道のセットバック事業を継続するとともにJR 成田駅西口において、駅前にふさわしい賑わいの創出と魅力ある施設の新たな整備や駅周辺のバリアフリー化を図ります。

また、京成公津の杜駅では、老朽化した既存舗装を景観に配慮した新たな舗装に打ち換え、人の交流を生むベンチを多く設置することで、魅力向上と賑わい創出を図ります。

2つ目の方策については、2つの事業がその目的において重複しますが、自転車通行帯整備や公園遊具整備を継続し、都市機能の維持・充実を図ります。

あわせて、本計画において令和4年度に見直しを実施した立地適正化計画について、令和9年度で計画期間が終了するため、次期計画において改定を行います。

3つ目の方策につきましては、継続事業として、引き続き安全安心な住環境の形成を図ってまいります。

最後に、今後のスケジュールについてです。

本日の評価委員会におけるご意見等を踏まえ、事後評価の結果を取りまとめ、2月中を目途に国への提出を行い、その後速やかにホームページにより公表を行います。

以上、雑駁ですが、議題第1号の説明とさせていただきます。

議長： ありがとうございます。

それでは、今後のまちづくりの方策についてご意見ご質問等ございましたら。

眞野委員： 先程も少し触れましたが、今後の課題として、外国人居住者の増加と、それから多文化共生を図る、このことは大きな字で明記されて、もう非常に素晴らしい一歩だなど、ぜひ期待しております。

11月末日現在の外国人住民が9,948人で、おそらく12月で1万人、来年になるともっといく。そうすると、人口13万人で、1万人が外国人ということは、13人に1人が外国人の都市なのです。少し前の資料で現状はわかりませんが、全国で平均しても3パーセント前後ですので、やはり国際空港都市成田のまちづくりとして外国人居住者のことを考えていかないと、成田市の市民、日本人とうまくいかなくなると、荒れた街になるという可能性はゼロとは言えないので、受け入れをきちんとやるまちづくりを進めていただきたいと心から願う次第で期待しております。よろしく申し上げます。

議長： 他にございますか。

会津委員： 私もこの多文化共生のまちづくりは非常に必要だと思って期待していますが、都市部における多文化共生とはどういった施策があるのか。誰にでもわかるような標識とか看板を設置するぐらいしか私には全然思い当たらずで、ソフト面ではいろいろと取り組みがあるかと思いますが、その辺りを考えているのか、ぜひ教えていただけたらと思います。

事務局： この計画自体、都市部のみで行うものではなく、庁内で、ハード面のみならずソフト面も補助対象となる制度であり、まちづくりの方針に合致する事業であれば、比較的いろいろな事業が提案可能となっています。

ハード整備でいくと、多文化共生という誰でもわかるようなサインを設置するなどが考えられますけれども、それ以外にも、他部署で考えている事業がこの事業の方針に一致するのであれば、積極的に取り入れて、一緒に取り組んでいきたいと考えております。

会津委員： よくわかりました。ありがとうございます。

あと、公津の杜駅前の広場の整備事業で、ベンチを増やすというお話がありましたが、以前に議会でも取り上げさせていただいたのですが、仕切りのある、いわゆる排除ベンチと呼ばれているようなベンチが全国に増えていて、そうではなく、これに書いてあるように誰もが居心地のいい空間だと感じられるような駅前にしていただくためには、疲れたときとか具合の悪いときに横になれるような仕切りの無いベンチをぜひ増やしていただきたいと思っておりますが、このことについてご意見とかお願いします。

事務局： 実際にベンチを設置する際には、今、ご意見があったようなことは十分考慮した上で、進めていきたいと考えておりますので、ご理解いただければと思います。

それともう一つ、本日、事後評価ということを通して、その目標の設定が妥当でなかったのではないかというご意見が多々あったと思います。それは、事務局側にも本当に思うところはありまして、大変申し訳なく思っております。

この都市再生整備計画は、なぜこういったものを定めてやるのかということ、実際にその事業を行う側とすれば、これはやはり国の補助金を有効に活用する手段の一つであります。細かな話になってしまいますが、なかなか今は個別の事業に国の補助金が付きづらい実態がありまして、こういった都市再生整備計画に事業を掲げることによって、国の補助金を使い、より有効に都市基盤整備を進めていけるというところがあります。

補助金をもらうためだけにやっているのかということになってはいけませんので、本日ご意見にありましたような、この事業をやることによってどういった効果が表れるのか、そういった指標の設定を次回の計画以降しっかりと考えて進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

議長： ありがとうございます。関連して申し上げますと、これまでの単独の補助事業ではなくて、エリア全体に対して広く色々な事業を推進できるようにしていることから、国としても広いエリアでの評価を求めているところであり、やや現実を反映しにくい形での指標が、当初設定されたのではないかという印象を持ちます。

本日は様々な意見が出ましたので、国に提出するに当たっては、本日の意見を踏まえ、未達成の指標の評価の検討や修正などを行っていただければと思います。

他にご意見ご質問等ございますか。

今後のまちづくりですから、いろいろな意見を地元の方々には持っていらっしやると思いますので、一つ印象深いことを申し上げますと、「誰もが居心地の良い」という言葉は、役所の中ではあまり使われない言葉かなど。どちらかということ快適性だとか、効率的とか、そういう言葉が使われるのが多いように思いますが、この「居心地」という言葉は人それぞれいろいろな思いがあるかと思えます。単なる快適性とか速達性とか効率ということだけではなくて、速く行くよりも鈍行で行った方がいいということと同じように、何となく居心地がいいとか、落ち着けるとか、そういうような雰囲気醸し出す言葉だと思います。

用語をただ掲げるのではなく、その言葉の持つ意味をよく整理した上で、事業に取り組んでもらいたいというのが私の感想でございます。

他にご意見ご質問等ございますか。

なければ、事務局には、ただいま出されました意見を付して国へ提出いただきまして、今後の計画に十分活かしていただくということによろしいでしょうか。

〔委員同意〕

議長： ありがとうございます。本日の議事は以上となります。

6 傍聴者

なし

7 次回開催日時（予定）

未定

令和 7 年 1 月 29 日

以上、協議の内容と相違ないことを認め署名する。

議事録署名人 渡邊 鉄也

議事録署名人 会津 素子